

英国知的財産庁、「商標のインセンティブ」と題する報告書を公表

2011年8月3日

JETRO デュッセルドルフ事務所

英国知的財産庁 (UKIPO) は、7月8日、「商標のインセンティブ (Trade Mark Incentives)」と題する報告書を公表した。本報告書は、UKIPO からの委託を受け、オックスフォード大学、ミュンヘン大学、アストン大学の合計4名の教授等によって作成された。

商標の取得と企業の業績との関連性を分析することを主目的としており、英国内の企業を対象にした調査において、商標を取得している企業は、商標を取得していない企業と比較して、21%多い収益を得ていることが示されている。その他の興味深いデータは次のとおり。

- 商標は、大企業においてより多く取得されている傾向があり、大企業：12.9%、中企業：5.2%、小企業：1.7%、零細企業：0.4%であった。
- 商標はあらゆる事業分野において利用されていたが、製造業、卸売／小売業、事業サービスにおいて最も多く利用されていた。商標を取得している割合は、ハイテク製造業：9.8%、中技術レベルの製造業：7.2%、その他の製造業：7.0%であり、一方、非製造業は2.2%であった。
- 共同体商標を含む全ての商標に対する国内商標の割合を国際化度合として事業分野別に算出したところ（数値が低いほど国際化の度合が大きい）、通信：0.439、コンピュータソフト：0.477、製造業：0.505の順で国際化度合が大きかった。
- 定期的に商標を取得している企業は、そうでない企業と比較して、20%多い雇用を創出し、賃金も0.7%高かった。
- 2000年～2003年に商標を取得した企業は、そうでない企業と比較して、2003年～2006年の雇用および収益の成長速度において、6%上回っていた。

－ 報告書本文は、以下参照 －

[Trade Mark Incentives \(PDF\)](#)

－ 報告書要旨は、以下参照 －

[Trade Mark Incentives Executive Summary \(PDF\)](#)

(以上)